

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道1号 伊豆縦貫自動車道 東駿河湾環状道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：静岡県沼津市岡宮 至：静岡県田方郡函南町平井	延長 15.0km	
事業概要 伊豆縦貫自動車道は静岡県沼津市岡宮を起点とし、伊豆の国市、伊豆市等の主要都市を経て下田市に至る延長約60kmの高規格幹線道路です。 本事業の一般国道1号東駿河湾環状道路は、沼津市岡宮を起点とし、田方郡函南町平井に至る延長15.0kmの道路であり、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、観光支援を目的に計画された道路です。		
S63年度事業化	S62年度、H6年度 都市計画決定 (H一年度変更)	H元年度用地着手
全体事業費 2,520億円		事業進捗率 89%
計画交通量 33,100台/日		供用済延長 10.0km
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 7.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 210/3,177億円 (事業費：169/3,071億円) (維持管理費：42/107億円)
総便益 (残事業)/(事業全体) 1,495/4,498億円 (走行時間短縮便益：1,351/3,974億円) (走行費用減少便益：92/358億円) (交通事故減少便益：51/166億円)		基準年 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.3~1.6(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.6(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.8(事業期間±20%)		
【残事業】交通量：B/C=6.4~7.8(交通量±10%) 事業費：B/C=6.6~7.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=6.6~7.6(事業期間±20%)		
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・並行区間等に当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線(東海バス等)が存在する。 ・新幹線駅(JR三島駅)へのアクセス向上が見込まれる。		
②都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり。		
③国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する。 ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる。		
④個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクトを支援する。 ・主要な観光地(伊豆地域)が存在する。		
⑤安全な生活環境の確保 ・並行区間等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる。		
⑥災害への備え ・第一次緊急輸送路として位置付けられている。		
⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。		
⑧生活環境の改善・保全		

- ・NO2排出量の削減が見込まれる。
- ・SPM排出量の削減が見込まれる。
- ・夜間騒音値の低減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等

3市4町で構成される東駿河湾環状道路整備促進期成同盟会が未開通区間の早期供用を要望。

知事の意見

本事業は、沼津・三島都市圏において、伊豆地域へ流入する観光・物流などの広域交通と生活交通などの混在を解消し、渋滞を緩和するとともに、伊豆半島への30分圏が拡大し観光の周遊性向上に大きく寄与する、地域全体の発展に欠かせない道路です。

また、近い将来の発生が危惧されている南海トラフ巨大地震等により甚大な被害が想定されている伊豆地域にとって、伊豆縦貫自動車道は、「命の道」であり、早期の全線供用開始に向け、東駿河湾環状道路の残事業区間についても、コスト縮減の徹底と整備推進をお願いします。

また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き、県、地元市町と十分な調整をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・沼津・三島都市圏では、伊豆方面への通過交通と生活交通等の混在により、静岡県平均の約2倍の渋滞損失時間が発生。
- ・沼津・三島都市圏における平均死傷事故率は高く、県平均の1.8倍。
- ・伊豆半島の玄関口にある主要観光施設では、入り込み客数が増加していますが、伊豆半島の中・南部では横ばい、もしくは減少傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は89%、用地進捗率は88%。
- ・三島塚本IC～函南塚本IC間(L=6.8km)を工事中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・三島塚原IC～函南塚本IC間(L=6.8km)は、平成25年度に開通(2/4、2/2)予定。
- ・大場・函南IC～函南IC(仮称)間(L=1.9km)は、概ね10年程度の開通(2/4)を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・残土の一部を他事業へ流用することで、残土処分費を削減。
- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。